

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 52

Ben Webster【ベン・ウェブスター】

～ 3 大テナー奏者のひとりとしてジャズ史を飾る巨人～



Photo: "Kind of Webster" / Ben Webster (House Of Jazz)

Profile

1909 年 3 月 27 日、米国ミズーリ州カンザス・シティ生まれ。本名は Benjamin Francis Webster。幼少の頃からピアノとヴァイオリンを習う。後にサキソフオンを学び始めてからもピアノを弾くことも多かったが、バド・ジョンソンに基本的な演奏法を教わって以来、サクソ奏者としてレスター・ヤングも在籍していた“ヤング・ファミリー・バンド”に参加。32 年にベニー・モーテンのバンドに参加。34 年にフレッチャー・ヘンダーソン・オーケストラに参加する他、アンディ・カーク、ベニー・カーター、キャブ・キャロウェイのバンドやテディ・ウィルソン・ビッグ・バンド等で活動。35 年にデューク・エリントン楽団と初共演を果たして以降、40 年までエリントン楽団初のテナー・ソリストとなる。また、ベーシストのジミー・ブラントンと共にエリントン楽団の主要メンバーとなり、“ブラントン＝ウェブスター・バンド”と称されて人気を得る。43 年にエリントン・楽団を退団後はニューヨークを拠点に活動し、数々のレコーディングも行う。その後もジェイ・マクシヤンのバンドやオスカー・ピーターソン、コールマン・ホーキンス、アート・テイタムとの共演でも話題となる。64 年よりヨーロッパに移住し、イギリス・ロンドン、オランダ・アムステルダム、デンマーク・コペンハーゲンと移り住み、気が向いた時に演奏を行っていた。71 年にはデューク・エリントンと再会し、デンマークで再共演を果たした。コールマン・ホーキンス、レスター・ヤングとともにスィング全盛期の 3 大テナー奏者のひとりとして称され、ジャズの歴史を飾った。晩年は脳出血に苦しみ、1973 年 9 月 20 日アムテルダムの病院で死去。遺体はコペンハーゲンで火葬され、同地ノレブロにあるアシステンス教会墓地に埋葬された。享年 64 歳。

ストリングスをバックに録音した
ベン・ウェブスターの名演を収録



バラッズ ベン・ウェブスター

(ウルトラ・ヴァイヴ：OTCD-5836)

ベン・ウェブスター (ts)、トニー・スコット (cl)、ビリー・ストレイホーン (p)、ウェンデル・マーシャル (b)、他

1. チェルシーブリッジ 2. ラヴ・イズ・ヒア・トゥ・ステイ 3. イット・クッド・ハブ・トゥ・ユー 4. オール・トゥー・スーン (他、全19曲)

オスカー・ピーターソン・トリオと
ベン・ウェブスターの共演アルバム



ライヴ・イン・ハノーファー ベン・ウェブスター

(Gambit Records: GAMBIT-69316)

ベン・ウェブスター (ts)、オスカー・ピーターソン (p)、ニールス・ヘニング・エルステッド・ペデルセン (b)、他

1. ポウテン 2. サンディ 3. アイ・ガット・イット・バッド・アンド・ザット・エイント・グッド 4. パーディド 5. カム・サンディ (他、全10曲)

ベン・ウェブスター最晩年の
未発表ライブ音源を収録した作品



ベン・ウェブスター・ミッツ・ピエト・ヌードウィク1973 ベン・ウェブスター

(55 RECORDS: FNCJ-5618)

ベン・ウェブスター (ts)、ピエト・ヌードウィク (as)、イルフ・ログリン (p)、ロフ・ランゲライス (b)、トニー・インザラコ (ds)

1. ソフィスティケイテッド・レディ 2. ジョニー・カム・レイトリー 3. スウィート・ジョージア・ブラウン 4. スロウ・ブルース (他、全7曲)

ベン・ウェブスターが1954~55年にかけて、ビリー・ストレイホーンやラルフ・バーンズがアレンジを施したストリングスのオーケストラを従えてレコーディングした名演全19曲(約79分)を収めたアルバム。テナー・サウンドの魅力、ジャズ・バラードの良さが伝わり、大人のジャズの雰囲気も漂う。サングラスをかけ、タバコを啜ったベン・ウェブスターの渋いショットを捉えたジャケットも魅力で、ベン・ウェブスター入門としても最適。

1972年11月14日、ドイツ・ハノーファーで行われたベン・ウェブスターとオスカー・ピーターソン・トリオとの共演ライブを収めたアルバム。ベン・ウェブスターのブrouとオスカー・ピーターソンのピアノのシンギング感が堪らない。サウンドから2人の真録も体感できる。中でも「パーディド」の演奏はベン・ウェブスター〜オスカーのソロへと最高の瞬間が連続する中、心地良くウォーキング&スイングするペデルセンのベース・プレイも最高。

録音は1973年2月2日、場所はオランダ・フロニンゲンの「De Koffer」。このライブの7か月後にアムテルダムで病院で息を引き取ってしまったベン・ウェブスターの最晩年のライブ音源を収録。オランダのチャーリー・パーカーと称され、当時40歳前半と自分より2回り年下の若きピエト・ヌードウィクの熱演に対抗するかの如く、ベン・ウェブスターが最高のブrouを聴かせてくれる。会場、聴衆の盛り上がりも臨場感たっぷり。

ビッグ・ベン、ザ・ブルート、フロッグ

ジャズ史にその名を刻んだジャズの巨人は親しみを込めて愛称で呼ばれることも多かったが、巨漢から放たれる大音量、野性味溢れる豪快なブrouから、ベン・ウェブスターが“ビッグ・ベン”、“ザ・ブルート(野獣)”と称されていたのは納得。加えて、テナーを吹きながら声を出して、音を濁らせる奏法でグロウルを多用し、熱が入ると白目を剥いてグロウルすることで“フロッグ(蛙)”とも呼ばれていた。本人も納得していたのか、他のジャズマン達が本人の前で呼んでいたのかは定かではないが、“ガマ蛙”的なイメージだったのだろう。

映画『カンザス・シティ』

1996年に公開されたロバート・アルトマン監督の仏米合作の映画で、1930年代に活躍していたジャズマン役を現役のジャズマンが演じて話題にもなった『カンザス・シティ』。1932年にベン・ウェブスターがベニー・モーテンの伝説的なバンドに加わる頃の模様も描かれており、ベン・ウェブスター役はジェームズ・カーターが演じた。その他、レスター・ヤング役はジョシュア・レッドマン、コールマン・ホーキンス役はクレイグ・ハンディ、カウント・ベイシー役はサイラス・チェスナット、ジョー・ジョーンズ役はヴィクター・ルイスが演じている。

Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) Vol.25 ~ Desafinado【デサフィナード】~

この曲はアントニオ・カルロス・ジョビン作曲、ニュートン・メンンサ作詞により1959年に発表されたボサノヴァ・ナンバー。ポルトガル語で意味は「音痴/音はずれ」。1962年録音のスタン・ゲッツ&チャーリー・バードの『ジャズ・サンバ』や1964年録音のスタン・ゲッツ・ジョアン・ジルベルトの『ゲッツ/ジルベルト』の大ヒットによりジャズのスタンダードとして定着した。また、ジョージ・マイケルがアストラッド・ジルベルトとの共演で発表もしている。

★この名曲が聴けるお薦めのアルバム

コールマン・ホーキンス『デサフィナード』
エラ・フィッツジェラルド『エラ・スウィングス・ライトリー』
ディジー・ガレスピー『ニュー・ウェイヴ・ディジー・オン・ザ・フレンチ・リヴィエラ』
ハーブ・アルバート&ザ・ティファナ・プラス『ザ・ロニー・フル』
ジョアン・チャモロ『プレゼンタ・ラ・マヒア・デ・ラ・ヴェー』